

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災	維持管理	環境	コスト	ICT	品質	(該当する分類に○を付けてください)								
技術名称	ミニウオール工法			担当部署			九州支店営業部								
NETIS登録番号	K T-140131-A			担当者			石渡裕一郎								
社名等	ミニウオール工法協会			電話番号			092-558-2171								
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 施工機のテレスコピック型グームの先端に装着した懸垂式リーダーをガイドとしたチェーンカッターで溝壁の掘削を行うため、施工機に固定された三点式リーダーをガイドとした多軸垂オーガで削孔する従来技術では施工できなかった狭隘部での施工が可能となった。 2. 技術の内容 カッターポストに装着したチェーン式カッター（ビットアイドラー）により、原地盤とポスト下端から吐出されるセメントスラリーを鉛直方向に均質な強度のソイルセメント地中連続壁を達成する工法です。等厚壁ができることから任意の間隔で芯材を建て込むことが可能となり、土留設計の自由度が高く経済的な土留止水連続壁をぞうせいすることが出来る。 3. 技術の効果 施工機のテレスコピック型の先端に取り付けた懸垂式リーダーガイドとしたチェーンカッターで掘削を行う為グームを伸ばせることにより施工機が隣接できない狭隘な場所や段差のある場所での施工が行える。又、対象地盤鉛直方向全層をチェーンカッターの上下動で混合攪拌することで、現地盤の土質や物性の異なる互層地盤に対しても深度方向に強度のバラツキの少ない均質な等厚のソイルセメント壁が造成できる。 4. 技術の適用範囲 当工法にて適用可能な掘削深さ、掘削幅、対象地盤を下記に示す。 <table><thead><tr><th>区 分</th><th>適用範囲</th></tr></thead><tbody><tr><td>○掘削深度</td><td>H＝2.0m</td></tr><tr><td>○掘削厚</td><td>T＝250 ～ 800mm</td></tr><tr><td>○対象地盤（標準施工）</td><td>粘性土、砂質土、礫質土（最大礫径100mm以内） 最大N値50以内</td></tr></tbody></table> 5. 活用実績 国の機関 3 件（九州 0件、九州以外 3件） 自治体 7 件（九州 1件、九州以外 6件） 民間 2 件（九州 0件、九州以外 2件）							区 分	適用範囲	○掘削深度	H＝2.0m	○掘削厚	T＝250 ～ 800mm	○対象地盤（標準施工）	粘性土、砂質土、礫質土（最大礫径100mm以内） 最大N値50以内
区 分	適用範囲														
○掘削深度	H＝2.0m														
○掘削厚	T＝250 ～ 800mm														
○対象地盤（標準施工）	粘性土、砂質土、礫質土（最大礫径100mm以内） 最大N値50以内														

6. 写真・図・表

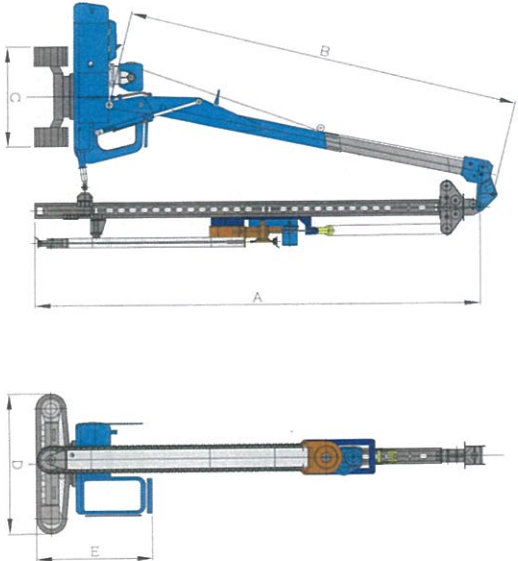
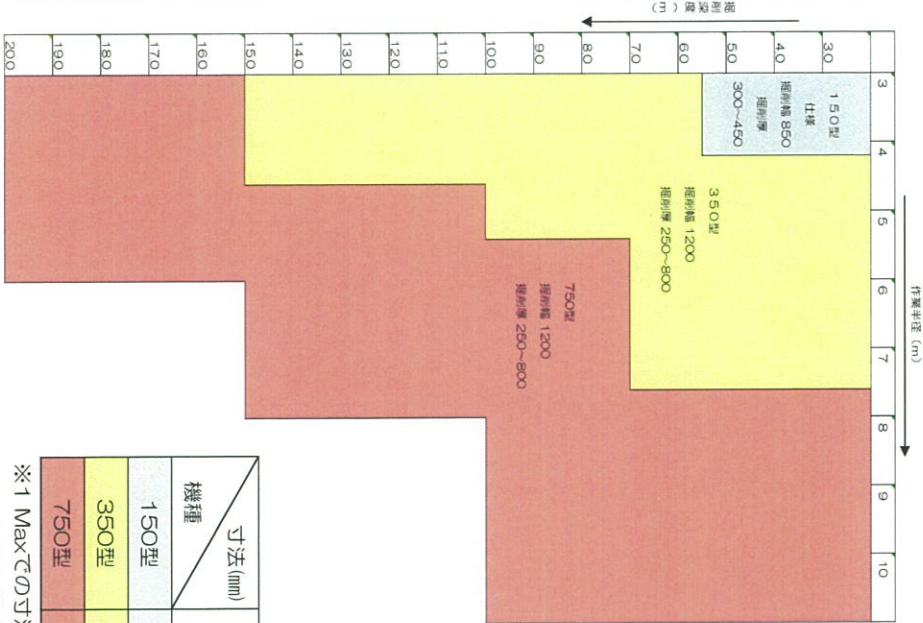
掘削状況

ヒットアイブロー先端



350型

● 施工機種の選定



機種	寸法 (mm)	A	B ※1	C	D	E
150型		11540	12870	2610	3660	3000
350型		15221	23200	4080	5135	3072
750型		24635	22731	4830 ※2	5880	3185

※1 Maxでの寸法値。

※2 寸法値は拡張時、縮小時は3200